

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	編集後記
別タイトル	EDITORIAL POSTSCRIPT
作成者（著者）	東邦大学医学会編集委員会
公開者	東邦大学医学会
発行日	2021.09.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 68(3).
資料種別	その他
著者版フラグ	publisher
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD62251084

アステラス製薬

(株)

田辺三菱製薬

(株)

(ABC 順)

編集委員会

編集委員長：中野裕康

編集委員：赤羽悟美

狩野修

内藤篤彦

高橋寛

編集顧問：伊豫田明

弘世貴久 池田隆徳

片桐由起子 近藤元就

南木敏宏 佐藤二美

和田弘太

津熊久幸

(ABC 順)

編集後記

密閉、密集、密接を避ける生活が始まってから、早くも1年半以上が経ちました。SARS-CoV-2の感染拡大を防ぐために、会社では在宅勤務が、学校ではリモート授業が否応なく推進されました。その結果、Zoomなどのデジタルコミュニケーションツールが瞬く間に普及しました。ロックダウンという措置の取られた海外の都市ではデジタルコミュニケーションツールが社会のつながりを維持するための、まさに命綱となったことでしょう。生活必需品の買い物以外、一切の外出を認めないというロックダウンにより、大学での研究にも大きな支障が出たといえます。幸い本学では、感染防止策を厳守した上で研究活動を継続することができています。本号にも数多くの東邦医学会例会、総会で発表された研究成果の一端が紹介されています。パンデミックという困難な状況でも、教育、研究、診療を高いレベルで維持しようという本学関係者の矜持が、読者諸兄にも伝わったのではないのでしょうか。

COVID-19は未だ終息のめどがたたず、東京オリンピック開会式がおこなわれる予定の本稿執筆時、首都圏では第5波に突入し、東京での1日あたりの新規感染者数は2千人を超えようとしています。SARS-CoV-2パンデミック終息の唯一の手立ては、ワクチン接種です。現在、ファイザー/ビオンテック社製とモデルナ社製の2種類のmRNAワクチンの接種が進んでいます。しかしながら、ワクチンの供給不足により、接種回数が制限されてしまっています。

国内でワクチン開発が出来ていたならば、このワクチン供給不足を補うことが出来たかもしれません。最近、ドイツの製薬会社が新たに開発したmRNAワクチンの有効性が、現在実用化されている2つのmRNAワクチンよりずっと低いものであり、実用化を断念したということが伝えられました。やはり、地道な基礎研究の継続、知見の積み重ねが重要だということが言えるのではないのでしょうか。COVID-19終息後、将来の新規ウイルス感染症に備えるため、また、パンデミック後のより良い社会創造のために、COVID-19の検証をし、将来に生かさなければなりません。デルタ株が猛威をふるっている今、皆様のご健勝と、パンデミックの早期終息を切に願っています。

(近藤元就)

東邦医学会雑誌 第68巻 第3号

令和3年9月1日発行

編集兼
発行人 中野裕康〒143-8540 東京都大田区大森西5丁目21番16号
東邦大学医学部本館 3階

東邦大学医学会

(振替口座 00190-6-95793)

tel. 03-3762-4151 ex. 2465/fax. 03-3764-1642

e-mail: igakukai@med.toho-u.ac.jp

http://tms.med.toho-u.ac.jp

東京都北区西ヶ原3-46-10

株式会社 杏林舎